

令和元年5月24日現在

機関番号：33918

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2014～2018

課題番号：26380800

研究課題名(和文) ソーシャルワークの価値の可視化と習得 - ワーカーの認識成長プロセスの解明 -

研究課題名(英文) Visualization and mastering social work values: exploration of the recognition growth process.

研究代表者

大谷 京子 (OTANI, Kyoko)

日本福祉大学・社会福祉学部・教授

研究者番号：90434612

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,700,000円

研究成果の概要(和文)：本研究はソーシャルワークの専門性を探究した。その一構成要素である「スキル」については、アセスメントに、専門性の基礎になる「価値規範」については、専門職アイデンティティに焦点化した。

アセスメントについては、スキルの可視化、研修プログラムの開発、スキル評価指標の開発を行った。専門職アイデンティティについては、養成課程卒業後のソーシャルワーカーが、それをどのように醸成していくのかプロセスを明らかにした。さらに専門職アイデンティティ評価尺度を用いて、バーンアウトや職務満足度、職務コミットメントとの関連を検証した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

ソーシャルワークスキルの基盤になるアセスメントについて、スキルの可視化と研修プログラムを開発、普及できた。さらにスキル評価指標を提示しているので、エビデンスをもってソーシャルワーカーが省察しスキルアップができる仕組みを構築できた。

社会福祉領域でほとんど先行研究がない専門職アイデンティティについて、養成課程卒業後3年間での変化のプロセスを明らかにした。さらに量的調査によって評価尺度を開発し、バーンアウトや職務満足度との関連を検証した。専門職養成と現任者訓練の中に、専門職アイデンティティ教育を組み込む必要性についてエビデンスを提示した。

研究成果の概要(英文)： This study researched professionalism of the social work. About "skill" that is one component of professionalism, I was focused on assessment and about "values" that is the base of professionalism, was explored through the professional identity.

About the assessment, I developed the visualization of the skill, the training program, and the skill evaluation index. About the professional identity, I clarified a process how a social worker fosters it after their graduation. Furthermore, using an professional identity scale, I inspected the relation between burnout, occupational satisfaction, the duties commitment and the professional identity.

研究分野：社会福祉学

キーワード：ソーシャルワーク 専門職アイデンティティ 成長プロセス 尺度開発

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19、CK - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

ソーシャルワーク(以下 SW)の専門性は、知識・技術・価値規範で構成されるといわれており、知識は、国家資格化により一定程度の標準化がなされてきた。しかし技術と価値規範については、研究も実践も充実しているとはいえない。

技術については SW の要とされるアセスメントに焦点を絞り、科研費基盤研究(C)「精神保健福祉士の現任研修プログラム開発と普及 - エビデンスに基づく達成課題と評価 -」(平成 23-26 年度)において、スキルの可視化と実践評価指標、スキル向上のための研修プログラム開発を進めてきた。

価値規範については、科研費基盤研究(C)「精神科ソーシャルワーカーの実践評価指標の開発」(平成 20-22 年度)において、SW 実践を支える「自己規定」「対象者観」という「認識」を可視化する指標を開発した。これらは個々の価値規範を表現する要素であると確認した。

2. 研究の目的

ソーシャルワーク実践に影響する、ソーシャルワーカー自身の認識の変容プロセスと促進要因を明らかにし、ソーシャルワーカーが個別に省察するためのガイドブック作成と研修プログラムの開発を目指す。上述の2つの先行研究成果を活用し、SW の専門性構成要素である、技術と価値規範の可視化に寄与する。

具体的には、(1)ソーシャルワーカーの認識(「自己規定」と「対象者観」)の成長プロセスを明らかにする、(2)価値規範を包含する専門職アイデンティティ評価尺度を開発する、(3)専門職アイデンティティとバーンアウト、職務コミットメント等との関連を検証する、(4)アセスメントスキル向上のための研修プログラムの普及をはかる。

3. 研究の方法

(1)養成課程卒業前から、1年ごとに3年間、3大学1専門学校出身の14名のソーシャルワーカーの追跡調査を行った。4回のインタビューができたのは10名だった。「役割認識」「自己規定」「対象者観」について、毎回同じインタビューガイドに従って、半構造化インタビューを実施し、事例コードマトリクス、KJ法 AB 型、内容分析で分析した。毎回のインタビューごとに、書面と口頭で調査の趣旨と倫理的配慮について説明し、データは匿名で扱うこと、研究外使用はないこと、分析終了後のデータの廃棄等を約束して、契約書を交わした。

(2)日本精神保健福祉士協会の協力を得、無作為抽出によって2,500名を対象に、専門職アイデンティティに関する質問紙調査を実施した。専門職アイデンティティ評価尺度は、Adams ら(2006)をベースに作成した。

(3)(2)で信頼性妥当性を確認した尺度によって算出された専門職アイデンティティを独立変数として、久保(2014)のバーンアウト尺度、佐藤ら(2015)の職務コミットメント尺度を用いて、関連を検証した。

(4)アセスメントに焦点を絞った実践スキルの研修プログラムの完成と普及のため、多様な対象者へプログラムを実施した。受講者の感想文から、プログラム内容の修正を行い、対象別、時間別のプログラムを完成させた。さらに、研修受講終了者が研修プログラムを運営できるよう、研修講師の養成をした。「プログラムの補佐として参画」「プログラム運営に講師が補佐としてサポート」というプロセスを経た。

4. 研究成果

(1)追跡調査の結果、役割認識は、卒業前でも14名が共通して言及する役割はなかった。また、当初より個別支援に偏重しており、卒業前に言及されなかったマクロの役割認識は3年後も言及

されることはなく、卒業前にイメージできていた役割もどんどん矮小化されていった(図1参照)。

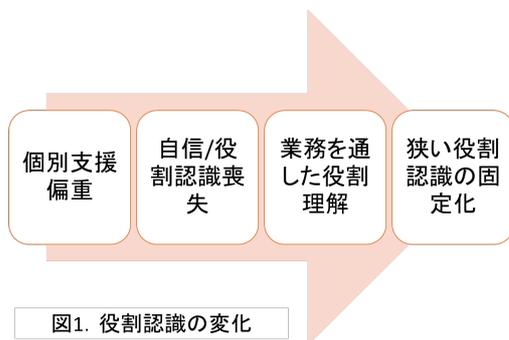


図1. 役割認識の変化

自己規定は、卒業前には「頼られる PSW」を目指す者と、「頼られてはいけない」と逆を目指す者がいた。後者は当事者主体や対等な関係を志向していた。しかし3年後には、両方が、「どちらか一方ではなく、状況によってありうる」ともの受け止めるようになっていた(図2参照)。

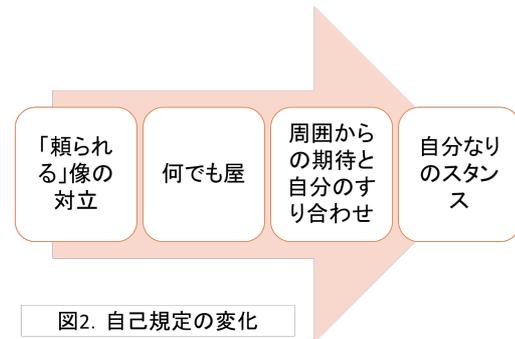


図2. 自己規定の変化

対象者観は、「支援の受け手」「弱者」という者と、「成長させてくれる」「教えてくれる」存在という者がおり、それぞれ3年の関わりの中で、目の前の当事者によって捉え方が変化していた。

(2)(3)現在論文投稿中であり、詳細を記述できないが、専門職アイデンティティ評価尺度の信頼性、

妥当性が検証された。また、バーンアウト、職務満足感、職業コミットメントとの有意な関連が認められた。

(4)アセスメントスキルの可視化、スキル評価指標の開発、研修プログラムというこれまでの研究を集約した著書を出版した。完成したプログラムは、研修プログラム修了者が講師として実施を継続しており、普及されている。これまでに、精神保健福祉領域以外にも多様な対象者に向けて実施しており、受講者からは肯定的評価を得ている。アセスメントスキルは、一般的な研修ではスキル向上が見込めないことが明らかにされているため、本研修プログラムの普及の意義があると考えられる。

引用文献

Adams, Kim., Hean, Sarah., Sturgis, Patrick., & Clark, Jill Macleod, Investigating the factors influencing professional identity of first-year health and social care students, *Learning in Health and Social Care*, 5(2), 2006, 55-68.

佐藤みほ・朝倉京子・渡邊生恵・下條祐也「日本語版コミットメント尺度の信頼性・妥当性の検討」『日本看護科学会誌』5, 2015, 63-71.

久保真人「サービス業従事者における日本版バーンアウト尺度の因子的、構成概念妥当性」『心理学研究』85(4), 2014, 364-372.

5 . 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計 10 件)

大谷 京子「包括的ソーシャルワークアセスメント：アセスメント概念の進化を踏まえて」『ソーシャルワーク研究』44(2), 2018, 81-91、査読無。

寺澤 法弘「我が国の精神保健福祉領域におけるリカバリー概念の展開と今後に向けて」『社会問題研究』67, 2018, 171-184、査読無。

大谷 京子「ソーシャルワークアセスメントスキル評価指標の開発 - 精神保健福祉士を調査協力

者とする質問紙調査より - 』『ソーシャルワーク学会誌』32, 2016, 1-12、査読あり。

田中 和彦「主任介護支援専門員のスーパービジョン実践に関する研究 - スーパーバイザーに焦点を当てて - 』『日本福祉大学専門学校紀要』14, 2016, 21-30、査読無。

寺澤 法弘「分散型実習による精神保健福祉援助実習の意義 - 実習指導者へのインタビュー調査から - 』『2015 年度社会福祉実習教育研究センター年報』13, 2016, 13-23、査読無。

大谷 京子「アセスメント面接に対するクライアント評価の探求 - 面接ロールプレイ分析 - 』『精神保健福祉学』3(1), 2015, 35-48、査読あり。

田中 和彦「ソーシャルワークアセスメントスキル - 若手 PSW を対象とした研修プログラムの構想及び着眼点 - 』『日本福祉大学専門学校紀要』13, 2016, 29-38、査読無。

大谷 京子「ソーシャルワークアセスメントスキル - 面接ロールプレイを用いた質的分析 - 』『ソーシャルワーク研究』40(3), 2014, 48-57、査読あり。

大谷 京子「ソーシャルワークにおけるアセスメント - 態度とスキル - 』『日本福祉大学社会福祉論集』130, 2014, 15-29、査読無。

〔学会発表〕(計 14 件)

大谷 京子「ソーシャルワーカーの役割認識と自己規定の変遷 - 養成課程卒業後 3 年の PSW への経年インタビュー調査 - 』日本ソーシャルワーク学会第 35 回大会、2018。

大谷 京子「ソーシャルワークスーパービジョンスキル指標 - 個別スーパービジョンにおけるスーパーバイザーのスキル - 』日本社会福祉学会第 66 回秋季大会、2018。

大谷 京子「ソーシャルワーカーの自己規定の変遷 - 養成課程卒業後 2 年の PSW への経年インタビュー調査 - 』日本ソーシャルワーク学会第 34 回大会、2017。

大谷 京子「精神保健福祉領域のソーシャルワーカーの認識の変化 - 養成課程卒業後 2 年の「自己規定」と「対象者観」 - 』日本社会福祉学会第 65 回秋季大会、2017。

寺澤 法弘「リカバリー概念が実践現場に及ぼす影響に関する文献研究 - 専門職の当事者に対する態度とその背景要因の検討 - 』2017。

大谷 京子「精神保健福祉領域のソーシャルワーカーの専門的価値認識 - 養成課程卒業前 PSW0 年生へのインタビュー調査 - 』日本社会福祉学会第 64 回秋季大会、2016。

大谷 京子、田中 和彦「精神保健福祉領域のソーシャルワーカーの役割認識の変遷 - 養成課程卒業後 1 年の PSW へのインタビュー調査 - 』日本ソーシャルワーク学会第 33 回大会、2016。

田中 和彦、大谷 京子、寺澤 法弘、「ソーシャルワークアセスメントプロセス研修プログラム開発 - PSW 塾の取り組み - 』日本社会福祉学会第 62 回秋季大会、2014。

大谷 京子、田中 和彦、寺澤 法弘、吉田 みゆき「アセスメントプロセスに活用するスキルの検討 - クライアントの主観に焦点を絞って - 』日本社会福祉学会第 62 回秋季大会、2014。

大谷 京子、田中 和彦「ソーシャルワークアセスメントスキル - エキスパート面接ロールプレイからの抽出 - 』日本ソーシャルワーク学会第 31 回大会、2014。

〔図書〕(計 5 件)

大谷 京子「ソーシャルワークの専門的価値とは」木村容子、小原眞知子編『ソーシャルワーク論 (しっかり学べる社会福祉 2)』ミネルヴァ書房、2019、pp139-148

大谷 京子、田中 和彦『失敗ポイントから学ぶ PSW のソーシャルワークアセスメントスキル』中央法規、2018、139 ページ

田中 和彦「社会福祉の専門職」大熊信成、嶋田芳男、増田康弘編著『社会福祉形成分析論』大学図書出版、2015、pp42-50。

〔産業財産権〕

出願状況（計 0 件）

取得状況（計 0 件）

6 . 研究組織

(1)研究分担者

研究分担者氏名:田中 和彦

ローマ字氏名:TANAKA, Kazuhiko

所属研究機関名:日本福祉大学

部局名:福祉経営学部(通信教育)

職名:准教授

研究者番号(8桁):10440801

研究分担者氏名:寺澤 法弘

ローマ字氏名:TERAZAWA, Norihiro

所属研究機関名:日本福祉大学

部局名:社会福祉学部

職名:助教

研究者番号(8桁):80548636

研究分担者氏名:吉田 みゆき

ローマ字氏名:YOSHIDA, Miyuki

所属研究機関名:同朋大学

部局名:社会福祉学部

職名:准教授

研究者番号(8桁):70445930

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。